

「エネルギーセキュリティシナリオ2023」 の制作過程

角和昌浩（かくわまさひろ）

要約 シェルの最新グローバルシナリオ「エネルギーセキュリティシナリオ2023」を紹介する連載を始めたい。このシナリオ作品は2023年3月に発表されている。これに先立つ2021年2月、シェルは「エネルギー変革シナリオ」を公表していた。後者は2020年春から世界を襲ったコロナ禍に触発された作品であった。対して前者は、2021年初めに突然はじまったロシアによるウクライナ侵攻の影が色濃い。本稿では、「エネルギーセキュリティシナリオ2023」を語ってゆく準備作業を行っている。

1. まえがき

これから数回にわたって、シェルの最新グローバルシナリオである「エネルギーセキュリティシナリオ2023」を紹介しましょう。

本誌エレクトロヒートでは、2021年のNo.240誌から数回に分けて「シェルのエネルギー変革シナリオ」と題した連載で、エネルギー環境問題を中心に据えたシナリオ作品を取り上げました。それから、はや、2年・・・ここを書き継ぎます。

筆者は編集者殿のご厚情を得つつ、「“シェル流”シナリオプランニングをめぐって：歴史、手法、理論」という連載をいただき、とても自由に書かせていただいております。たいへんありがたいことでもあります。が、省みれば、読者諸兄は現在、“電気や熱の分野で”現役で働いておられる。専門性と経験を活かしておおいに世の中に貢献しておられます。筆者は心を正して、シェルの最新のエネルギー環境問題についての見解を報告し、いくぶんでも現役諸兄のお役に立ちたい、と思いたった次第であります。

筆者はジャーナリストではない。研究者の訓練を受けている。だから「エネルギーセキュリティシナリオ2023」を題材とするも、そこはきちんと公平に、分析的に扱いつつ紹介しようとするのである。なお、この話題は是非とも早く知りたいものだヨ、という向きは、JOGMEC（エネルギー・金属鉱物資源機構）、石油・天然ガスレビュー 2023.7 Vol.57 No.4に、「シェルの「エネルギーセキュリティシナリオ2023」」と題して

寄稿しているの、こちらをご覧ください。

まあ、ゆっくりと始めましょう。

筆者が名刺を持たなくなって、ほぼ4年が過ぎました。世間様に対して、もう“営業活動”はやりません、と宣言をしたのです。よって仕事に誘ってくるのは、昔からの友人、知人たちで、「引っ込んでないで出てこい、ボケ防止が必要だろう」という、優しい気遣いなのだろうが、なにしろ当方はめでたく年寄りとなり、年金生活者となり、わがままにもなったもので、気が進まないプロジェクトだと、断然、辞退してしまう。

そのかわり、これはやってみよう、世の中に役立つかもしれない、という仕事に誘われると飛び込んでゆく。「まあ、昔なじみの君に甘えたい、予算の関係があるんだ」と、やんわり告白されれば、「いいのだ、電車賃だけ出してくれれば、よいのだ」と、引き受ける。現役コンサルの皆さんから見れば、市場の片隅を荒らしているケシカラヌ悪漢、「怪人シナリオ仮面」だ。だからこのごろ身辺に気を付ける。

最近、民間企業から「社内で内輪のディスカッションを、シナリオスタイルで進めてみたいのだ、昨今、ネットゼロとかグリーントランスフォーメーションとか・・・実は、ひそかに胡散臭いと思っているのだが、ここは腫れ物にさわらうようで、公けの席では口にできないのだなあ」というようなお話しが来る。そうなる、怪人シナリオ仮面は、勇んで支援に出向く。

また、「日中民間交流の未来」という大柄なテーマが進行中で、この仕事もやってみよう。民間ベースの日中交流の現場を観察して、未来の交流形態を、当事者と一緒になって描いていながら、集まってく